

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	13-091	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
<p>The relationship of mental and behavioral disorders to all-cause mortality in a 27-year follow-up of 4 epidemiologic catchment area samples. 精神行動障害と全死亡に対する関連についての4つの調査地区における27年間フォローアップ</p>		
執筆者		
Eaton WW, Roth KB, Bruce M, Cottler L, Wu L, Nestadt G, Ford D, Bienvenu OJ, Crum RM, Rebok G, Anthony JC, Muñoz A.		
掲載誌		
Am J Epidemiol. 2013 Nov 1;178(9):1366-77. doi: 10.1093/aje/kwt219.		
キーワード		PMID
人口統計学、精神行動障害、死亡、27年間のフォローアップ		24091891
要 旨		
<p>目的： 精神行動障害と死亡との関連を調査した。</p> <p>方法： Epidemiologic Catchment Area Programの対象者は1979～1983年にインタビューを受けている。この対象者と2007年までのNational Death Indexのデータとリンクし、精神行動障害と死亡との関連について検討した。時間軸としての年齢を用いて解析を行い、障害によって失われた年数についてパラメトリックアプローチで定量化した。</p> <p>結果： 15,440人が25年以上にわたって調査され、6,924名の死亡があった。観察期間は307,881人年であった。アルコール、薬物、反社会的人格障害が死亡リスクの増大と関連していたが、気分障害や不安症とは、強い関連を認めなかった。National Death Indexとのhigh-あるいはlow-quality matches (一部の照合変数の不一致のものも結合した場合)による結果も同様であった。一般ガンマーモデルを用いて人生を見積もってみた場合、3つの行動障害が5～15年間の人生の喪失と関連していた。回帰ツリー分析では死亡のリスクは、非黒人においてはアルコール使用障害と、黒人においては、薬物障害と関連していた。恐怖症は、非黒人の女性でアルコール障害と強迫性障害は黒人の男性において、薬物障害と関連していた。これらの不安症は、若い時期の低い死亡リスクと、中年期以降の死亡の高いリスクと相関があった。</p> <p>結論： 飲酒と反社会的人格異常は非黒人の死亡、黒人の薬物使用障害と関連していた。</p>		